

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第53号

平成27年7月発行

発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

副院長就任のあいさつ



愛知県がんセンター
中央病院 副院長
木下 朝博

2015年5月より副院長を拝命しました血液・細胞療法部の木下朝博です。愛知県がんセンターは病院と研究所を併せ持つ県立としては日本初のがん専門施設であり、昨年開設50周年を迎えました。このような伝統ある当院で副院長として重責を担うこととなりました。どうぞよろしくお願いたします。

私は2011年4月に血液・細胞療法部に部長として着任し、輸血部長も併任しております。今回副院長を拝命するにあたり、丹羽病院長からは医療安全管理などを担当するように申しつかりました。医療安全管理は病院にとって極めて重要な課題です。当院では医療安全管理部を中心として、全病院をあげて医療安全の推進に積極的に取り組んでいます。

本年10月1日には医療法の改正に盛り込まれた新たな医療事故調査制度が施行されます。これは医療事故が発生した医療機関において院内調査を行い、その調査報告を第三者機関（医療事故調査・支援センター）が収集・分析することで再発防止につなげるための制度です。当院ではすでに第三者を含めた医療事故調査委員会を実施しておりますが、今後もさらに安全な医療の推進に向けて努力して参りますので、ご指導ご支援のほどよろしくお願いたします。

がん予防の啓発イベント活動を行いました！

場所：イオンモールナゴヤドーム前店

6月27日（土）にイオンモールナゴヤドーム前店1Fノースコート催事場において、がん予防の啓発イベント活動を行いました。

当日は、がん予防に関する催し物として、触診模型を用いてがんの発見方法を学ぶ「乳がん自己検診コーナー」、がんのリスクについてチェックシートを使って点数化し、確認する「がんリスクチェックコーナー」を設けました。両コーナーとも専門の医師、看護師からその場で直接指導してもらえることもあり、正しい知識を学んでいただく良い機会となりました。

また、手洗いがきちんとできているかどうかをチェックする「手洗いチェックコーナー」、歯や口の健康状態について学ぶ「歯科コーナー」、ナース服を着て写真を撮る「看護師体験コーナー」を設け、子供から大人まで気軽に参加でき、楽しみながら学べる体験型の催し物も行いました。

午前10時から午後3時までの間、500名を超える方にご参加いただき、大盛況のうちに終わることができました。2人に1人はがんにかかる時代と言われている今、一般県民の方に少しでもがんについて知っていただけるよう、当センターでは今後がんに関する啓発活動を行っていきます。

がんリスクチェックコーナー



看護師からのアドバイスを皆さん真剣に聞いてみえました。

乳がん自己検診コーナー



乳腺科の医師が模型を用いて直接指導しました。

手洗いチェックコーナー



専用の器械を使って、洗い残しがないかをチェック。

看護師体験コーナー



子供に大好評！親子で一緒に撮影する方もみえました。

歯科コーナー



その場で直接口内チェックができ、子供から大人まで幅広く参加していただきました。

全体の様子



ニュース番組の取材を受けました。放送後は来場者数も一層増えました。

センター探訪 ⑧

コンビニ・レストラン新規オープン

愛知県がんセンターを支える縁の下の力持ちを紹介します。第8回はコンビニ・レストランです。

がんセンターの新しい仲間として、この4月からレストラン「CROSS ONE」が加わりました。

朝8時のオープンからはホットケーキセットでモーニングタイムを過ごし、お昼どきはコック長の「日替わりランチ」で食事を楽しむことができます。

夏には「冷やし中華」や「冷やし山菜そば」などの暑い名古屋にぴったりのメニューもございますので、ぜひ一度ご賞味ください。



そして、5月からはコンビニ「heartful FamilyMart」が仲間に加わりました。

店舗は、愛知県がんセンターの特徴である「アトリウム」に面したところ全てが入口になっており、また店内の通路幅も広く設計されているので、車椅子の方にも非常に利用しやすくなっています。

最近では、コンビニで購入したおいしいスイーツやコーヒーを片手に家族や友人とアトリウムで歓談をする光景がよく見られ、病院内というよりはオープンカフェであるような雰囲気にもなっています。



患者さんやご家族の方に快適なサービスを提供できる様に日々取り組んでまいりますので、コンビニ・レストランをどうぞよろしくお願いいたします。

つばめの会（^{えんげ}嚥下障害患者さんの会）紹介

嚥下障害（飲みこみの障害）患者さんの情報交換の場としてつばめの会を毎月第3木曜日の13時から国際交流センター視聴覚室で開催しています。患者さん同士、退院してから困ったことや工夫していることの情報交換はもちろん、飲みこみ専門の看護師、歯科衛生士、栄養士に相談することも可能です。飲みこみに不安があっても食べられそうな軽いおやつでも食べながら、お話できればと思います。



平成27年度 愛知県がんセンター公開講座

◇開催日及びテーマ

回	開催日時	申込	テーマ（講師）
1	平成27年5月16日（土） （愛知芸術文化センター）	14：00～16：00 （開場 13：30） 終了不要	講演「がん治療の温故知新～50周年を迎え、開設当時の治療法と最新の治療法の比較～」 ①胃がん手術の今昔（手術部 部長（兼消化器外科部 医長）：伊藤誠二） ②直腸がんの術式の変遷～QOL（生活の質）向上を考慮した術式とは～ （消化器外科部 医長：小森康司） ③肺がんに対する体に優しい手術と肺を温存する手術（呼吸器外科部 医長：黒田浩章）
2	平成27年7月18日（土） （ウインクあいち） （愛知県産業労働センター）	14：00～16：00 （開場 13：30） 終了不要	講演「希少がんの知識」 ①希少がんについて（薬物療法部 医長：安藤正志） ②軟部肉腫の診断と治療～早期発見と的確な治療～（名古屋大学医学部保健学科 教授 杉浦英志） ③頭頸部（口・鼻・首・のど）がんについて（副院長（兼頭頸部外科部 部長）：長谷川泰久）
3	平成27年8月5日（水） （がんセンター研究所）	9：00～10：00 事前申込 定員14名	高校生向け 基礎実験体験講座 「がん細胞を探し出せ！～正常細胞とがん細胞の違いを観察しよう～」
4	平成27年9月5日（土） （中央病院 国際医学交流センター）	14：00～16：30 （開場 13：00）	講演「がん研究最前線～個別化医療の実現に向かって～」 ①すい臓がんの臨床研究と実践（消化器内科部 医長：水野伸匡） ②進化したがんの放射線治療（放射線治療部 医長：立花弘之） ③がん免疫療法～最近の進展について～（腫瘍免疫学部 部長：葛島清隆） ④がんの弱みを叩く分子標的的研究とは（感染腫瘍学部 部長：小根山千歳） ⑤がんセンター研究所のミッション（研究所 副所長（兼分子腫瘍学部 部長）：関戸好孝）
	・研究所紹介	調整中	不要 調整中
5	平成27年11月8日（日） （愛知芸術文化センター）	14：00～16：00 （開場 13：30）	講演「がんの診断について」 ①顕微鏡で分かるがんの性格（遺伝子病理診断部 医長：村上善子） ②肝がんの画像診断と画像誘導下治療（放射線診断・IVR部 部長：稲葉吉隆） ③内視鏡でここまで分かる消化管のがん（内視鏡部 医長：田近正洋）
6	平成28年2月20日（土） （ウインクあいち） （愛知県産業労働センター）	14：00～16：00 （開場 13：30）	講演「ロボット手術の展開について（仮）」 ①泌尿器科領域における、ロボット手術（ダ・ヴィンチ）の実際（泌尿器科部 医長：曾我倫久人） ②手術ロボット「ダ・ヴィンチ」を使った消化器がんの手術（仮）（消化器外科部 医長：三澤一成） ③内視鏡での咽喉頭がん手術（仮）（頭頸部外科部 医長：西川大輔）

◇場所

- 第1・5回 愛知芸術文化センター 12階 アートスペースA（名古屋市東区東桜1丁目13番2号）
 第2・6回 ウインクあいち（愛知県産業労働センター） 5階 小ホール（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）
 第3回 愛知県がんセンター研究所 北館3階セミナー室（名古屋市千種区鹿子殿1番1号）
 第4回 愛知県がんセンター中央病院 国際医学交流センターメインホール（名古屋市千種区鹿子殿1番1号）

◇受講料及び受講対象 無 料 ・ どなたでも受講できます。

◇申込み 不 要
 愛知芸術文化センター 定員220名
 中央病院 国際医学交流センター 定員350名
 ウインクあいち 定員200名

◇その他

- 当日は駐車場が混雑しますので、公共交通機関をご利用ください。
- この内容は、愛知県がんセンターホームページでもご覧になれます。
- 申し込みいただいた方の個人情報は、当該目的以外に使用しません。

*愛知病院でも公開講座を実施しております。

【問い合わせ先】

愛知県がんセンター 運用部経営戦略室 公開講座係

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

*TEL（代表）052-762-6111（内線2511） *FAX 052-764-2963 *ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

感染腫瘍学部長 就任あいさつ

～シグナル破綻を標的にした新たながん治療法を目指して～

研究所 ～感染腫瘍学部～



感染腫瘍学部長
小根山 千歳

本年4月に大阪大学微生物病研究所より愛知県がんセンター研究所感染腫瘍学部に着任しました小根山千歳と申します。国内屈指のがんセンターであり、がんの診断治療や予防、研究をリードしてきた愛知県がんセンターの一員として研究できることは、大変嬉しく身の引き締まる思いです。

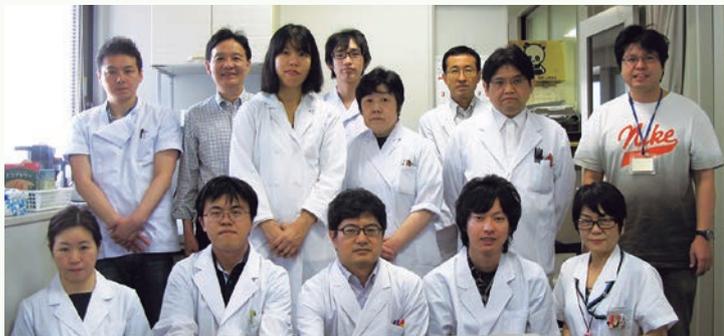
私たちの身体をつくる細胞の中では、増殖や生存を調節するために様々な信号(シグナル)のやりとりが行われています。しかし細胞を取り囲む環境の変化や、遺伝子が傷つくことによりシグナル伝達が乱れると、細胞のがん化やその悪性を招きます。

私の研究の原点は、シグナル伝達の鍵分子の一つであるSrc(サーク)の役割を探求することでした。この研究から、がんにおいてシグナルはどのように破綻するのか?さらには破綻を復元することができれば、がん細胞を正常細胞に近い状態へと導いてがんを抑制できるのではないかと考えるに至り、その可能性を探求しています。シグナル破綻という観点からがん化の仕組みを深く理解することは、効果の高いがん治療標的の発見や、有効性の高い薬剤選択法の開発にもつながります。病院と研究所が併設された当センターで、臨床に役立つ基礎研究を志向し、研究者としてがんを闘いたいと思います。

研究員の紹介

研究所 腫瘍医化学部

「どのようにしてがんが起こるのか?」という根本的な問題が不明瞭なまま、多くのがん研究や治療が行われています。腫瘍医化学部は、この問題を独自のアイデア・実験法で解決することで、全てのがんが共通して持つ弱点を明らかにしたいと考えています。最近我々は、(1)細胞のアンテナである一次線毛という構造が細胞増殖を制御する仕組み、及び(2)染色体の数の異常とがん化・老化の因果関係、という2つのテーマについて精力的に研究を進めています。



前列左から：谷川順美嘱託研究技師、稲葉弘哲リサーチレジデント、田中宏樹リサーチレジデント、青木啓将連携大学院生、柚原千里研究補助
中列左から：川本恵理子嘱託研究技師、林裕子研究技師、後藤英仁室長、猪子誠人主任研究員
後列左から：笠原広介研究員、稲垣昌樹部長、牧原弘幸リサーチレジデント、井澤一郎室長

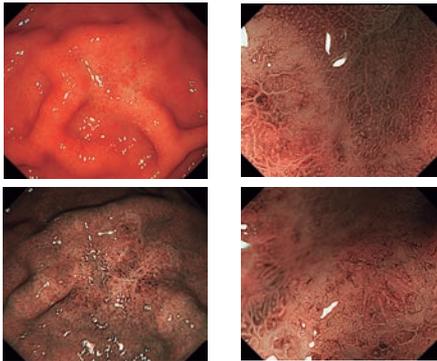
内視鏡室がリニューアルしました

中央病院 ～内視鏡部～

近年の内視鏡機器の進歩や内視鏡技術の向上はめざましく、消化器がんに対する内視鏡診断や内視鏡治療は大きく変化してきています。診断に関しては、画質の向上および画像強調観察 (Image-Enhanced Endoscopy ; IEE) の普及により効率的に早期の病変を発見することが可能となり、さらに詳細な拡大観察を加えることにより、病理組織像を推定できる精度の高い診断が可能となりました。また、治療に関しては、内視鏡的粘膜下層剥離術 (Endoscopic Submucosal Dissection ; ESD) の登場により、従来であれば外科手術が必要であった大きな病変も、内視鏡で治すことが可能となりました。



内視鏡部 医長
田近 正洋



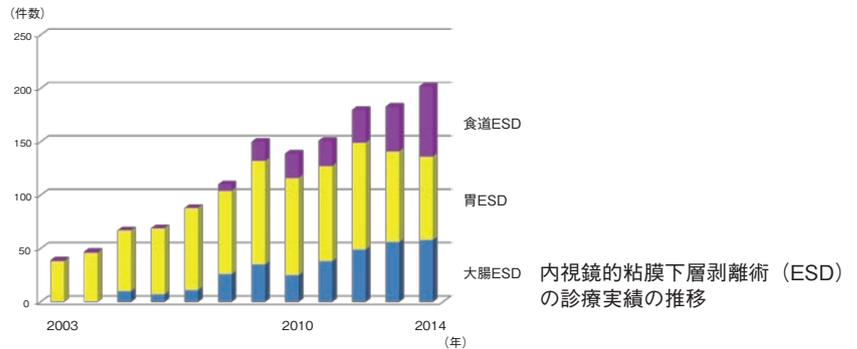
IEEの一例：狭帯光観察 (NBI) スイッチ一つで色調を変化され、さらに拡大することで、表面の模様を際立たせることができ、癌診断の一助となっている。

当院では、患者さんに最先端の内視鏡機器や技術を提供できるように常に心がけています。その一環としてここ数年で内視鏡室のリニューアルを行っています。H24年度はレントゲン透視室、H25年度は上部消化管検査室、そしてH26年度は下部消化管検査室を改装しました。部屋の間仕切りを工夫して、回復室を増やし、内視鏡室を広くしてさらに最新の機器を導入することにより、これまで以上に患者さんに最善の医療を提供できるようになりました。また、検査や治療の際には、患者さんの血圧や酸素飽和度などが常に観察できるようにモニタリング装置も配備しました。これからは患者さんに、より安全で安心して頂ける内視鏡検査および治療が提供できるよう改善を続けていきます。

当院では、患者さんに最先端の内視鏡機器や技術を提供できるように常に心がけています。その一環としてここ数年で内視鏡室のリニューアルを行っています。H24年度はレントゲン透視室、H25年度は上部消化管検査室、そしてH26年度は下部消化管検査室を改装しました。部屋の間仕切りを工夫して、回復室を増やし、内視鏡室を広くしてさらに最新の機器を導入することにより、これまで以上に患者さんに最善の医療を提供できるようになりました。また、検査や治療の際には、患者さんの血圧や酸素飽和度などが常に観察できるようにモニタリング装置も配備しました。これからは患者さんに、より安全で安心して頂ける内視鏡検査および治療が提供できるよう改善を続けていきます。



リニューアルを行った内視鏡室



診療医の紹介

中央病院 消化器外科部

消化器外科部は、消化器がん全般の外科治療を専門とする診療部門です。スタッフ12名とレジデント5名の総勢17名で食道がん・胃がん・大腸がん・肝がん・膵がんなどの消化器がん全般の手術治療をしています。2014年は770件の手術を行いました。私たちは最新で最良な外科治療を提供するために様々な臨床試験に参加して、手術方法や術前・術後の抗がん剤の使用法などの新しい治療法の開発に積極的に取り組んでいます。

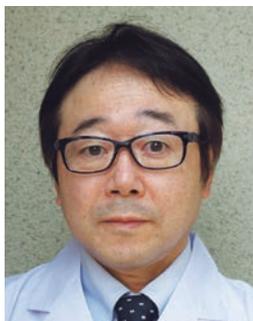
また、最近では消化器がんへ腹腔鏡手術が導入されるようになり、当科でも適応基準を決めて慎重に導入しています。



集合写真 (スタッフ・レジデント一同)

肺がん個別化治療と免疫治療は急展開中です

中央病院 ～呼吸器内科部～



呼吸器内科部長
樋田 豊明

肺がんの治療は、発病のメカニズムが遺伝子レベルで解明されてきており、遺伝子情報に基づいて薬の治療効果を正確に予測出来るようになってきました。つまり、難治性の肺がんも患者さん個人のがんの特性を調べ治療薬を選択する個別化治療の時代に突入してきました。

肺がんの中では腺がんタイプが最も多いのですが、腺がんの遺伝子異常にはEGFR、K-Ras、ALK、HER2、ROS1、RET、BRAFなどの遺伝子異常が見つかっています（図1）。それぞれの遺伝子異常に対する治療薬が開発され効果が認められていますが、特にEGFR遺伝子異常に対する治療薬の進歩は目覚ましく、使用しているうちに効果が悪くなる耐性が出現した場合にも、耐性を克服する次の治療薬の開発が進んでいます。

一方、免疫治療の開発が急速に進み劇的な効果も見られています（図2）。それは免疫チェックポイント分子を標的とした薬で、人間本来が持っている免疫力が発揮出来るようにする薬です。肺がんでは肺扁平上皮がん、肺腺がんが効果が証明されましたが、肺小細胞がんや胸膜中皮腫でも効果が期待され開発が進んでいます。今後の発展が非常に期待されています。

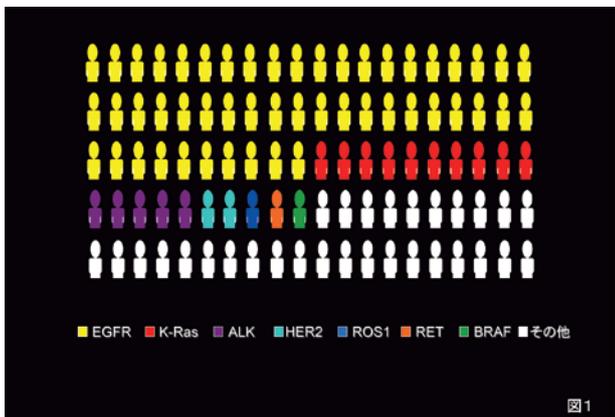


図1. 肺腺がんの遺伝子異常
肺腺がん患者さん100人の遺伝子異常について各タイプの割合を示しています。それぞれの遺伝子異常に対する治療薬が開発されています。

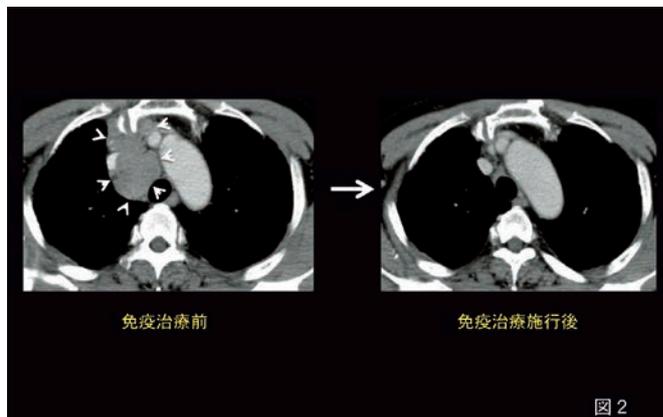


図2. 肺がんに対する免疫治療
免疫チェックポイント分子を標的とした薬を用いた治療で、肺がん（矢印で囲まれた所）が劇的に縮小しています（白く造影されている部分は血管）。

診療医の紹介

中央病院 泌尿器科部

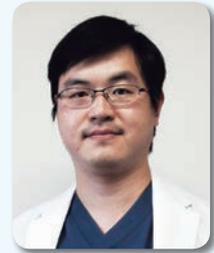
泌尿器科部はスタッフ3名とレジデント1名で、前立腺がんを中心に腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、精巣がんなどの尿路と男性生殖器の癌の診療を行っています。前立腺がんの手術は、低侵襲の腹腔鏡下小切開前立腺全摘術で行っていましたが、本年度（平成27年度）からはロボット支援手術を開始します。前立腺がんの放射線治療は、小線源治療（密封小線源永久挿入療法）と強度変調放射線治療（IMRT）を行っています。放射線治療は手術に劣らない良好な成績を示しています。腎がんの手術は腹腔鏡下根治的腎摘術に積極的に取り組んでいます。



左から
景山 拓海医師
曾我倫久人医長
林 宣男部長
小倉 友二医長

— 消化器内科部レジデント 吉田 司先生が人命救助 —

平成27年4月24日午後1時30分頃、日本消化器病学会総会が開催された仙台市のJR仙台駅での出来事です。中年男性が上りエスカレーターで意識を失い後ろに倒れかかりました。吉田先生は偶然居合わせて前から倒れてきた男性を支え、多くの人を通り過ぎてゆく中、一人心臓マッサージを行っていました。その場に居合わせた内視鏡部スタッフも協力して救命蘇生を行い、人命を救うことができました。病院外での心肺蘇生は難しいことが多く、吉田先生の行為に感動するとともに同僚であることを誇らしく思いました。



消化器内科部レジデント

吉田 司

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分
電話	052-764-9892 (直通)
F A X	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時 (土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)
 ※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

- ◎一般道路
 本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西
- ◎高速道路
 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

